

令和5年度奈良県公立高等学校入学者特色選抜学力検査問題 出題概要【国語】

1 出題の特徴

写真家である小林紀晴が、写真を撮る側の考えや写真を生み出す際の行動などについて述べた説明的文章を素材とした。古典については、親しみやすく、かつ自ら考えることができるような古典を素材とする観点から、平易な文体で書かれた、平安時代の説話集『今昔物語集』を素材とした。

これらの素材を基に、国語の基礎的な事項が身に付いているかをみるとともに、内容の正確な理解ができるかをみた。

さらに、言葉による見方・考え方を働かせ、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことをうたった学習指導要領「国語」の趣旨を踏まえ、話し合いの進行の仕方や、複数の意見を踏まえて自分の考えをまとめること、また、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することができるかをみた。

2 各問題の概要

問題一 写真を撮る側から述べられた、写真についての説明的文章を素材として、漢字の読み書きの力や、熟語の構成、内容の理解、楷書による書写などの基礎的・基本的な事項が身に付いているかをみた。

問題二 平安時代の説話を素材として、古典を読むための基礎的な力が身に付いているか、また、古典に親しむ態度が定着しているかをみた。（三）では、歌に表れたものの見方や考え方をとらえることができるかをみた。

問題三 話し合いを題材に、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることや、複数の意見の共通点や相違点などを踏まえて自分の考えをまとめることができるかをみた。（四）では、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することができるかをみた。

【出典】 小林紀晴『写真はわからない 撮る・読む・伝える―「体験的」写真論』
2022年4月30日発行、株式会社光文社